

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2011-夏

No.66

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



盛夏清水寺 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればとこの葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：
東京芸術大学 吉田左源二名誉教授

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」がある サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会とドメニコ会修道院

(イタリア共和国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

©UNESCO

レオナルド・ダ・ヴィンチが十五世紀末に描いた『最後の晚餐』のフレスコ画がある修道院と教会が世界遺産に登録されている。戦後徹底的な修復が行われ、壁画は一九九九年に当初の鮮やかさを取り戻した。ルネサンスを代表する建築家ブラマンテもこの教会の改築に携わっている。
(一九八〇年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

復活の日を信じて

このたびの東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を捧げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

※ ※ ※

長い人生の間に人は生涯忘れえぬ大きな事件に遭遇します。去る三月十一日の東日本を襲った巨大地震と大津波は、私にとって決して忘れることの出来ない衝撃的なものでした。大津波が来襲する光景をテレビでリアルタイムで見るといったことも、私にとっては初体験でした。

次々と沖から押し寄せてくる巨大な水の塊。その上を戸惑いを見せながら乱舞する海鳥の群れ。彼らの翼を助けを求めている人々にあげられたら、と念じましたが無力感はそのばかりでした。大自然の猛威の前には人間の力は、はかなく、弱いものです。誠に悲しい思いをいたしました。

また、同時に起きた多くの難問をかかえた原発の事故にも心痛めること大なるものを覚えました。

しかし、私は信じます。国難ともいっ

き今回の災害も人々の叡智と努力を結集すれば、東日本の地は必ずや再生し、復活の日を迎えることが出来ると信じています。

周知の通り、被災地には人道的支援・救済の手が国内外から多数さしのべられております。そういった状況下で、もの言わぬ被災者がいることを私たちは直視することも肝要です。それは有形、無形の文化財です。

現在、文化庁が中心となって被害状況の調査が進められておりますが、その数は膨大なものになると思われます。

有形、無形を問わず、文化財は私たちの祖先が営々として築きあげてきた知的生産物です。これを次の世代に伝えることが、今を生きる私たちの役目です。

戦場で傷ついた兵士は敵味方関係なく救わねばならない。国際赤十字の精神は、創設者であるアンリ・デュナンのこうした考えから発展しました。亡き平山郁夫先生は、デュナンの心に同調され、これを自然災害、戦火等で傷つき救いを求めている文化財に適用されました。皆さま御存知の「文化財赤十字構想」です。



理事長
宮田 亮平
(みやた りょうへい)

夏から秋にかけて東日本は「祭り」の季節です。中でも東北地方には全国的に知られる祭りが、この時期、各地で開かれます。祭りは感謝の念を神仏に捧げるものです。人々の故郷の尊宗の対象である神社仏閣の傷ついた文化財を守り、そして祭りをはじめ伝統的な諸行事をとり行う術を守ること、大切なことだと思います。生まれ育った地の心の拠り所ともいべき文化財を救うことも人々の心を癒すことにもなると思います。

このように社寺に属する文化財をはじめ、美術館、博物館等の被災文化財は、今、一日も早い救済を待ち望んでおります。とりわけ、古文書等の紙の文化財には一刻も早い保存修復の必要があります。

以上は、被災文化財の救出の理由のほんの一端にすぎません。私たちは「文化財赤十字構想」の精神のもと、東日本大震災で被害をこうむった文化財の救済活動に取り組みます。そのために国の内外を問わず、多くの方々に支援協力をよびかけております。御理解、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

東日本大震災と文化財レスキュー事業について

三月十一日、東日本を襲った巨大地震と大津波によって多くの尊い人命が失われ、多くの人々の大切な財産が奪われました。そのつした中、私たちは貴重な文化財の被災状況にも注目したいと思います。今、被災文化財に対し、どのような救済の手が差しのべられているのでしょうか！



独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所長
亀井 伸雄
(かめいの ぶお)

文化財を救済する意義

このたびの東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。未だ多くの行方不明者の捜索が続き、復興再建の見通しすら立たない被災地周辺などで過酷な避難生活を余儀なくされている多くの被災者がおられる中で、被災文化財の救済活動を行うことは心苦しい面もあります。しかし、地域に伝えられた有形無形の貴重な文化財は、先人たちの生きた証であり、今を生きる人々にとっても地域の伝統文化や精神文化を伝える貴重な遺産です。それらは、体に染み付いたいわば地域のDNAのようなものともいえるでしょう。それ故、文化財を守ることは、被災地域の今後の復興において精神的な糧や支柱になることは疑う余地はないと思います。

事実、震災後二カ月を経過した今日、いくつかの地区で被災文化財の保存修復をいわば復興のシンボルとして捉えようとする動きも出始めたとの報道がなされています。例えば、岩手県陸前高田市の名勝高田松原では七万本ともいわれた松林のなかで、ただ一本奇跡的に残った松の蘇生事業を中心に景勝地を復元すべく接木等の増殖活動が展開される一方、この松の姿を図案化してワッペンを作り救援並びに



1階部分が被災した石巻文化センター

被災の傷跡の癒えない中でも、各地で危機に瀕している伝統芸能や行事の復活へ向けた取り組みが開始されているとの報道もありました。こうした有形無形の文化財の保存や修復のことが報道される度に、伝統の持つ力の強さというものを今更ながら思い知らされるとともに、困難な生活環境の中で果敢に立ち向かうとする関係者のご尽力に頭が下がる思いです。

私たち文化財保護に関わるものとしても、今回の救援活動を通して被災文化財の保存に十全を期し、地域復興のために貢献したいと考えています。

すべての叡智を結集して

さて、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）ですが、文化庁の協力要請により、新年度早々の四月一日に御国立文化財機構はじめ幾多の文化財・美術関係団体が参加する「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」が



同館内の被災状況（1階収蔵庫前の通路）

多くの困難を乗り越えて

宮城県下では、すでに地震発生直後から地元の文化財関係者等による被害状況の把握が開始されています。三月末には県教育委員会から文化庁に対してこれらの救済を求める要請があり、被害が沿岸地方を中心に広範囲に及び、しかも津波によって数多くの文化財等が海水や泥水漬けとなっており一刻も早い応急措置と安全な場所への移動が必要との報告がありました。事務局では文化庁の協力の下、早速支援要請のあった宮城県へ出向き、県教育委員会や美術館博物館の関係者と協議しつつ被災文化財の状況、保管場所の選定等情報収集を行う一方、レスキューを行う上で必要となる現地本部の立ち上げ準備を行いました。

宮城県の現地本部は、青葉城下にある仙台市博物館の厚意により同博物館内に置かれることになり、四月十八日から実質的に機能し始めました。一方、この間関係機関との調整をはかりつつ四月十五日に東京文化財研究所に文化庁や国立文化財機構その他

その推進母体として結成され、東京文化財研究所にその事務局が置かれました。救援委員会結成当時の参加団体は、国立文化財機構、国立美術館、人間文化研究機構、国立国会図書館、財日本博物館協会、文化財保存修復学会、全国大学博物館学講座協議会、全国美術館会議、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本文化財科学会、文化財救援ネットワーク（順不同）の十一団体で、委員会活動に賛同・協力いただける組織の参加も歓迎されています。

文化財救援事業の概要は、被災県の支援要請に基づき文化財保護の専門家の力を結集して現地での被災文化財等の応急措置を施しつつ救い出し、より保管に適した場所に一時保管しようというものです。国指定の文化財だけでも五百件を超える被害が報告されていますが、救援対象となる物件は、国・地方の文化財指定などの有無を問わず、いわゆる美術工芸品や有形民俗文化財等の動産文化財や美術品を中心に考えています。

一階が水没した石巻文化センターの所蔵品の救援を第一号として、官民一体となった文化財レスキュー事業は開始されましたが、今回は津波による被害が大きいこともあって、石巻文化センターに限らず多くの文化施設で被災した文化財を搬出するまでも、入り口や通路をふさぐ大小の多量の漂着物を除却することから始めなければなりません。

現地のレスキュー活動は、多くの文化財関係者の手によって鋭意精力的に行われていますが、被災した文化財数の多さと、その応急措置、梱包や養生、搬出等にあたる専門家の確保及び輸送車両の手配、さらには保管場所の確保など必ずしも十分といえず、思ったようにはかどらないのが実情です。しかし、一つでも多くの被災文化財の救済が出来るよう最大限の活動してまいりたいと思います。

今後、宮城県や五月に入ってから救援要請のあった岩手県に限らず福島県、茨城県等被災県での広範囲にわたるレスキュー活動が予定されています。そのため、今後とも多くの皆様の文化財レスキュー事業に対するご理解と、資金提供や労力提供を含めた絶大なるご協力を心よりお願いいたします。



救援委員会実務者会議（4月15日）

一般の東日本大震災により尊い命を奪われた方々のご冥福をお祈りするとともに、いまだご苦勞を強いられている被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また多大な困難な中、被災した膨大な文化財・博物館施設等の救援に尽力しておられる方々に敬意を表します。

求められる迅速な救済活動

三月十一日に発生した大地震および巨大津波とそれに続く余震は、人的被害、物的被害ともに戦後最大の自然災害で、かくも広域かつ甚大な被害規模は予想も経験もしなかったことである。文部科学省や文化庁では直ちに被災した博物館施設や文化財等の実態把握に努め、被災地各自自治体が大きな被害を受け正確な情報収集は困難だったが、この状況で早急に文化財レスキュー事業の準備を始めた。移動可能な動産文化財等を損壊、廃棄、流出、盗難等の危機から救出し安全な施設等に一時的に避難させることは、実質的には平成七年の阪神・淡路大震災の時に初めて行なわれた。今回、広範囲に被害を受けたのは主に未指定の文化財や美術品、資料や標本の類である。これらを早急に救援するためには迅速、的確、柔軟に活動せねばならない。そのための組織構築と資金確保が喫緊の課題で

被災地の実態——文化財レスキューの現場から



歌津魚竜館 化石標本類の救出

ある。文化庁は国立文化財機構と複数の文化財美術関係団体に協力要請し被災文化財等救援委員会を結成、ここから人材派遣および資料提供をする。被災した各県教育委員会と協議をし、地域の要請に基づいて現地の活動方針を定める。また文化庁から各都道府県の教育委員会へ広域的に協力要請をし、職員派遣や一時保管に必要な博物館施設等の提供を依頼する。活動資金は公益財団法人文化財保護芸術研究助成財団を受け皿とし、広く国内外から寄付金・義援金を募ることとした。

被害の深刻さ

文化財は既に所在が明らかなの



文化庁美術学芸課
文化財管理指導官
朝賀 浩
(あさか ひろし)

このような新発見の歴史資料等も対象とする。さまざまな価値観を持つ人々が意識的に参画することによって多種多様な文化財が見いだされ救出される。今回、津波の猛威で集落が全滅した地域もある。その地の気候風土に基づいた特色ある歴史や文化があつたはずだが、それら有形・無形の文化を伝える「すがら」が失われた地域も少なくない。地域の風景が全く変わってしまうのだ。郷土の歴史や文化の記憶を伝える「もの」を可能な限り残すことは、地域アイデンティティーを保持し、復興の精神的支柱を維持する重要な意義を持つ。甚大な人的被害が出ている中、早々に文化財保護を唱えるのは感情的には微妙だが、その意義を理解頂きたい。

今回、各地を巡って文化財の被災状況を目の当たりにし、救出される現場に立ち会った。四月初旬、最初に石巻文化センターを訪れ、この震災の深刻さを思い知る。阪神・淡路以来、脆弱な文化財が地震で大きなダメージを受けることは諒解していたが、巨大津波で博物館施設全体が収蔵庫も含めて壊滅的打撃を被ったことには目を疑った。館内いたるところ瓦礫と泥で埋もれ容易に立ち入ることはできない。一階廊下の天井が泥水で持ち上げられた痕跡から津波の高さが想像される。ほぼ二日間にわたり二・五メートル以上も浸水し、恐らくこの水圧に耐えきれず収蔵庫の鉄扉は押し潰され

変形し庫内に弾けていた。作品や資料群が全て海水と泥と瓦礫に翻弄され傷んでしまった。同センターのレスキューは宮城県美術館、東北歴史博物館、仙台市博物館など地元の施設をはじめ国立文化財機構や全国美術館会議など多くの方々の尽力によって、館内の瓦礫や泥の撤去、収蔵庫内の資料と瓦礫との峻別、確保された作品等の応急処置、梱包と一時避難場所への輸送、そこの保存処置や洗浄などの作業が現在も継続されている。

南三陸町歌津の魚竜館へのレスキューは東北大学総合学術博物館が主体の活動で、化石標本、考古資料、民俗資料など館内に残存した文化財を回収し東北大学で保存処置が施された。二階展示室の陳列品で流出しなかったものが辛うじて救出されたが、津波にさらわれた貴重な資料も少なくない。

早急に取り組むべき課題

宮城歴史資料保全ネットワークによる栗原市域の予備調査に同行し内陸部の被害状況の一端を見た。今般の震災では沿岸部の津波被害が強調されるが、内陸部でも資料保管施設や旧家の土蔵などに大きな被害が出ている。さらに東松島市の野蒜築港資料室、同市民俗資料等収蔵庫、気仙沼市エースポート、岩井崎プロムナードなどの施設を



若柳郷土資料館 倒壊した資料館の建物



鯨と海の科学館 館内の被災状況 大型骨格標本が天井から吊り下がる

巡り、いずれも資料類の流出などの被害を確認した。この他、茨城県鹿嶋市や福島県いわき市などの現場で行政の方々や地元組織の皆さんが津波による被災文化財の救援に

邁進している様子も拝見できた。

五月に入って文化庁記念物課による岩手県内の埋蔵文化財包蔵地の現状確認に同行し、陸前高田市、大船渡市、山田町の博物館施設をいくつか視察した。岩手県では早くに県立博物館や二関市博物館等を中心に陸前高田市立博物館や同市立図書館等から救出した文化財の応急的な保存処理を行っている。同博物館ではガラス張りの開口部は全て破壊され泥と瓦礫が館内に押し寄せた。視察時は自衛隊の瓦礫撤去作業中で館内から自動車を重ねて運び出していた。収蔵品は現地勢力の努力によって既にほぼ搬出が済んでいたが、美術作品等いまだ一部が残されており、保存環境に加えて盗難等の危険性も懸念される。山田町の鯨と海の科学館でも施設および収蔵標本などに壊滅的な被害が出ている。同町の埋蔵文化財保管施設は津波で滅失し、かつての所在地にコンクリートの床面を残すのみで収蔵されていた資料類は全て流出した。

今回の大震災では文化財保護行政がかつて経験したことのない事態が多数起こった。博物館施設自体の津波被災、保管施設からの文化財の流出、膨大な文化財の海水水損。状況はいまだ落ち着かないが、これらの事態に対しては文化財に関わる全ての関係者の共通課題として重く受け止める必要性を感じている。

文化財保護と修復専門家の育成

シルクロード文化財保護フェローシップ



財団参与
渡邊 幸夫
(わたなべ ゆきお)

シルクロード沿線に今も残る数々の文化財。人類共通の宝も、長い時間経過による劣化、自然災害、戦争・盗掘など人災等で危機に瀕しています。そうした文化財を後世に無事に伝えるための日・中・韓、三国の保存・修復の専門家による人材育成事業が五年間の予定を滞りなく終了いたしました。その成果をご報告いたします。

シルクロードの文化遺産を守るために

当財団の重点事業、シルクロード文化財保護フェローシップ「日中韓共同シルクロード沿線文化財保存修復技術者育成プログラム」の修了式とシンポジウムが平成二十二年十二月十五日から十七日まで、中国北京市で開催されました。

この事業は、平成十八年度から五年間に亘り、中国文化遗产研究院において、日本及び中国の文化財保存専門家の講師陣により、約百名の修復技術者を育成するプログラムです。

研修生たちは、シルクロード沿線の新疆ウイグル自治区、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、陝西省、河南省の六つの省や自治区から選ばれた博物館等の文

化財保護担当機関の若手・中堅の専門家です。博物館所蔵文化財保存修復の各コース（陶磁器・金属器保存修復コース、紙の文化財保存修復コース、壁画保存修復コース、染織品保存修復コース）、博物館技術コース、土遺跡保存修復コース、建造物保存修復コース、考古発掘現場保存修復コースの八コースに分かれ毎年二～三コースを実施しました。

今回のシンポジウムは五年間の総まとめとして、これまで受講した研修生のうちの七十六名と日中の講師陣が参加して、各コースの講師や研修生が研究成果の発表を行い、文化財保存修復の技術と分析科学、修復理念などについて活発な意見の交換が行われました。

また、最終日には二〇一〇年度実施の壁画コースと染織品コースの修了式も行われ修了証書が中国国家文物局と東京文化財研究所から授与されました。

人材育成の重要性

財団では、これまで世界各地の文化財・文化遺産の保護・保存修理の支援を行ってまいりましたが、同時に、自国の文化財は自国の人により誇りを持って守られることが最善であるとの理念のもと、人材の育成にも力を注いできました。

敦煌研究院からは毎年二名から四名の研究員を日本に招聘して、一年または二年間東京文化財研究所や東京芸術大学で保存修復技術、保存科学、美術史等の研修を行ってきました。これまでに研修を行った五十名を超える研究員は、今では敦煌研究院のそれぞれの分野において中心的な役割を果たし、指導者の立場に在る人も多くいます。

欧米やアジアの美術館の修復専門家を長期間日本に招き、日本絵画の修復技術の研修を行う外国人研修員制度では、アメリカやイギリスなどからこれまでに五名の研究者を招聘して、日本の絵画修復工房などで研修を行いました。

また、日本の若手研究者を二年間、欧米の修復研究機関で学ばせる在外研修員制度では、アメリカ、イギリス、イタリアなどへ延べ十名の研修員を派遣してきました。研修生は帰国後、美術館や修復研究所の修復技術者として活躍されています。

日本国政府アンコール遺跡救済チームのサンボー・ブレイ・クック遺跡の保存修復事業では、遺跡の保存と並行してカンボジア人文化財保存専門家の育成を支援して、現地の保存修復事業のリーダーとなる研究員を養成しています。



研修生が修復した壁画

今回の「日中韓共同シル

クロード沿線文化財保存修復技術者育成プログラム」シンポジウムでは、五年間に亘った研修生の約八割の人が参加して発表や討論を行いました。互いに研究して切磋琢磨していることが頼もしく思われました。四ヵ月に亘り講義と実習を共にしたシルクロード沿線の各地の修復専門家の間でネットワークが形成され、文化遺産研究院との連携など文化財保護の輪が確実に広がっており、この事業が大きな成果を上げていることが確信されました。



感謝状を受ける関係者

国際協力の成果

日中韓共同シルクロード沿線文化財保存修復技術者育成プログラムは、文化遺産研究院での講義と実習または現地実習によりカリキュラムが組まれています。日中の修復理念や修復方法、修復材料の違いなどにより、時には活発な議論が戦わされましたが、研修生たちは先進的な科学技術を基にした調査方法や環境設計、修復記録の作成などを学び、日中双方の違いを認識して文化財保護に活かしていこうと真剣でした。

多くの研修生からは、日中韓の関係者に対して今回のプロジェクトに参加でき、文化財保存修復の理論的、技術的知識が大幅にレベルアップ出来たこと、文化財保護に携わる同じ仲間の輪が出来たことに喜びと感謝の言葉を頂きました。このプログラムを実施していただいた東京文化財研究所と中国国家文物局及び中国文化遗产研究院、ご指導いただいた講師の先生方に深く感謝するとともに、資金面で支援していただいた日本及び中国サムスン社、カレンダー募金に応募をしていただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」 上演にあたって



特定非営利活動法人オペラ彩理理事長

和田タカ子

今年一月、暖房の効かない体育館で、三時間に亘る最後の通し稽古をしました。本番を控えた歌い手たちにとって、最大の敵は風邪です。他に実寸の取れる会場が借りられなかったとはいえ、この最も大切なときに、劣悪な環境で稽古をさせてしまったことへの後悔と申し訳なさでいっぱいでした。しかし、稽古に臨んだ百人余りの人たちのだれからも表立った不満は聞かれませんでした。そこには生き生きと歌い、走り、青春を謳歌する若者たちがいました。

この上演に際し様々な意見がありました。賛同してくれる人たちがばかりではありませんでした。知られていない作品の再演、しかも東京近郊の小都市での上演とあって、リスクは相当なものになります。日独交流百五十周年に絡めて話題づくりをした、と捉えておられる向きもありますが、実際は違っています。オペラの準備は少なくとも一年半前から始めなければ間に合いません。不勉強で、その時点で私はそのことを把握していませんでした。

ネッスラーのオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」がライプツィヒ市立劇場で初演された一八八四年(明治十七年)は、森鷗外や黒田清輝等、志高き若者たちがヨーロッパに渡った年にあたります。初めて西欧の学術、文化に触れた彼等の感慨はいかばかりだったでしょうか。このオペラの原作となったシェッフェルの長編詩を、森鷗外が後に、「笛の音」と題して訳詩集「於母影」に登場させています。

「ゼッキンゲンのトランペット吹き」は一時ワグナーを凌駕するほどの人気を誇ったヴィクトル・ネッスラー(一八四一―一八九〇)の名作ですが、二度の戦争に挟まれて、楽譜も散逸し、音楽史の陰に隠れた存在となっていました。それを惜しんだ瀧井敬子先生(東京藝術大学社会連携センター特任教授)が中心となって、二〇〇六年に、オペラの舞台となったバート・ゼッキンゲン市と姉妹都市を結ぶ山形県長井市で、日本初演を果しています。

……多大なリスクを負いながらどうして「ゼッキンゲンのトランペット吹き」を上演したのか……と問われたら、私はこう答えたと思います。……野の仏に出会い、そのたまたまに魅かれて、もう一度訪ねてみたいと思った……と。

オペラは実際に演奏され、繰り返し上演されることで作品に普遍性生まれます。きたる七月三日、私たちS A I コーラス・ジャパン(オペラ彩合唱団と支援者で組織)は、かつてシェーナウ男爵の居城だったトランペッター城でコンサートを行います。ドイツに学んだ瀧井太郎や山田耕柞の歌を聴いていただきながら、ドイツの皆さまと友好を深め、「ゼッキンゲンのトランペット吹き」が再びドイツで上演される日を待ちたいと思っています。



2011年1月22日、23日公演 オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」の舞台より(和光市民文化センター大ホール)



地域と一体化した 文化事業をめざす

東日本鉄道文化財団では、鉄道をとりまく地域文化の振興、鉄道経営・鉄道技術の調査、鉄道を通じた国際文化交流など幅広く事業展開しています。その中で地方文化の振興を指し、一九九三年度より地方文化事業支援を続けています。これはJR東日本管内各地の貴重な文化遺産や伝統芸能などの保全と継承、地域の発展のためにJR東日本各支社が選出した候補に対し、選考の上、資金援助を行うものです。候補については、地域の顔であり日頃から地域に密着している「駅長」から推薦していただく形が多く、くらしに根差した小さな活動についても手をさしのべられるしくみを作っています。



事業支援を開始する際、必ず現地に赴き実施団体の皆さんと事業内容を確認しますが、その際いつも感じるのが、地域・保存会の皆さんの熱い思いです。自分達の地域の歴史に誇りを持ち、先人から受け継いだ文化をどうにか守り続けていこうという熱意が伝

わってきて、頭が下がる思いです。当事業を進めるにつれ、この熱意が周りに波及し、文化財への興味と継承する思いをより多くの人に育むきっかけとなれば、これほど嬉しいことはありません。それぞれの事業でご苦労されている点は違いますが、私どもが地域の皆さんの声に耳をかたむけることが貢献につながると考え、できるだけ事業を進めやすく、また継続しやすい形になるよう、応募要項等についても毎年見直しをしています。日々アンテナを高くして、人々の生活に根付いた文化、そしてそれを愛するところに少しでも貢献し続けていきたいと考えます。

第1回

文化事業への貢献

世界には様々な「力」が存在します。政治力、経済力、軍事力……。そうした中で「文化力」が最も平和な力かもしれません。文化を育てあげることが、世界に日本の存在を発信する大きな力になるでしょう。今月号から御支援いただいている法人会員の皆様に文化への取り組みをうかがいます。

高橋 司 たかはし つかさ (財)鹿島美術財団 常務理事



日本文化の向上と 発展を願って

私は財団法人鹿島美術財団に勤務いたしております。一九八二年に先達が設立趣意書を發表いたしました。が、それは、心の豊かさを培う必要のため、美しいものを追求すること、も精神の糧をめぐみ豊かな心をつくる一つの方法で、美術を鑑賞し愛好し、さらに研究することは私達の生活に

潤いを与え、文化を高める力となるでしょう、と記載しております。

鹿島美術財団は、美術に関する調査研究、研究成果の出版、美術図書の刊行、さまざまな国際交流などに資金的な援助の事業を行って美術の振興をはかり、わが国の文化の向上と発展に寄与することを目的としております。

わが国は勿論のこと、海外の美術家、美術評論家、美術研究家のさまざまな研究にも何らかの貢献ができ、ひいては美術鑑賞に親しむ人達に便宜と機会を提供して、美術を愛する人が一人でも多くなることに多少なりとも役立つことができれば幸いです。

また、鹿島グループでは長年、財団運営を通じて学術や文化振興に貢献しておりますので、ご紹介させていただきます。国内の大学生及び外国人留学生への奨学援助。(財)鹿島平和研究所一九六六年設立。国際平和の推進と日本の外交に関する諸問題の調査研究とその援助。(財)鹿島学術振興財団一九七六年設立。日本の学術の発展並びに国際交流助成・援助。(公財)渥美国際交流財団一九九四年設立。海外からの留学生奨学支援と元奨学生を通じて国際交流。などがあります。

定款第4条の定めに従い、次の事業を行った。

平成二十二年事業報告

平成二十二年四月一日から
平成二十三年三月三十一日まで

■文化財保存修復助成事業

＊美術工芸品の保存修復に対する助成

- ①宮城県・成覚寺
清海曼荼羅図の修理
- ②群馬県・安成寺
安成寺木造薬師如来坐像の保存修理
- ③新潟県・木村元藏
良寛遺墨漢詩六曲屏風の修理
- ④兵庫県・切利天上寺
待賢門院紺紙金字妙法蓮華経八巻の保存修理
- ⑤高知県・椎名常会
木造十一面観音菩薩立像の保存修理
- ⑥熊本県・東福寺
木造不動明王立像及び木造毘沙門天立像保存修理
- ＊有形民俗文化財の保存修復に対する助成
- ①東京都・小丹波熊野神社
小丹波熊野神社の修理
- ＊建造物の保存修復に対する助成
- ①埼玉県・根岸友憲
根岸家住宅長屋門の保存修理
- ②山梨県・神部神社
神部神社隨身門の修理
- ③奈良県・御霊神社
御霊神社本殿保存修理
- ④島根県・鶴岡南八幡宮
鉄塔付経堂保存修理
- ⑤山口県・河田麟
旧殿居郵便局局舎の保存修理

- ⑥大分県・教尊寺
教尊寺「経蔵・輪蔵」の保存修理
- ＊能登半島地震被災文化財の復興支援
- ①石川県・来迎寺
木造不動明王像及び童子像の保存修理

■芸術研究等助成事業

- ①国宝源氏物語絵巻現状模写研究
（東京芸術大学美術学部教授 手塚雄二）
- ②竹紙の保存性に関する研究
（東京農工大学大学院共生科学技術 研究院教授 岡山隆之）
- ③Textile Connection展
（東京芸術大学美術学部教授 山下了是）
- ④和楽の美―「邦楽で綴るシルクロード」―
（東京芸術大学音楽学部教授 三浦正義）
- ⑤文化財保存修復専門家養成セミナーの開催
（NPO文化財保存支援機構 副理事長 西浦忠輝）
- ⑥「美術研究」四〇〇号「美術史論壇」三〇号記念 共同シンポジウム
「美術史における【評価】の開催」
（東京文化財研究所企画情報部長 田中 淳）
- ⑦国際会議 木の文化と科学
京都2011の開催
（京都大学生存圏研究所長・教授 川井秀一）
- ⑧平城遷都一三〇〇年記念展
日本・中国・韓国現代メタルアート展「Sailing to the future」三〇〇年後の世界へ」の開催
（実行委員会委員長 篠原行雄）
- ⑨オペラ彩第二十七回定期公演オペラ「ゼツキンゲン」のトランペット吹き」の公演
（特定非営利活動法人オペラ彩 理事長 和田タカ子）
- ⑩アフガニスタン流出文化財壁画画片の保存修復展

- （東京芸術大学大学院美術研究科教授 木島隆康）

■国際協力事業

- ＊敦煌研究院関係助成
①一九九八年十二月十日付けで合意された人材育成等の援助計画に関する覚書に基づき、敦煌研究院より研究員二名の招致助成
（張 文元／邵 惠莉）
- ②敦煌研究院文化遺産データベース構築日中共同事業
（東京文化財研究所文化遺産国際協力 センター保存計画室長 岡田 健）
- ＊アンコール遺跡保存修復事業に関する助成
①プレ・アンコール、サンボ・プレイ・クック遺跡群の保存修復事業
（日本国政府アンコール遺跡 救済チーム団長 中川 武）
- ＊在外日本古美術品保存修復協力事業に関する助成
①在外日本古美術品保存修復協力事業
（東京文化財研究所保存修復 科学センター 副所長 川野邊 渉）
- ＊その他、左記事業の実施に対する助成
①トルコ共和国カマン・カレホユック遺跡出土遺物、建築遺構保存
（中近東文化センター アナトリア考古学研究所長 大村幸弘）
- ②中央アジアにおける博物館収蔵考古資料の再整理
（奈良文化財研究所企画調整部 文化財情報研究室長 森本 晋）
- 重点助成事業
- ＊尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
①法華寺所蔵 紙本着色「七草絵巻」 一巻の保存修復
②曇華院所蔵「牡丹唐草文様九条袈裟」 一領の保存修理
- ＊シルクロード文化財保護フェローシップ

- 事業
①日中韓共同シルクロード沿線文化財保存修復専門家育成プログラム
（中国国家文物局）

- ②日中韓共同シルクロード沿線文化財保存修復専門家育成プログラム
（東京文化財研究所）

■文化財の保護及び芸術振興に関する出版物の刊行、講演会の開催、その他普及及び広報活動に関連した事業

- ＊広報誌「絲綢之路」の発行
第63号（2010夏）平成22年6月15日発行
第64号（2010秋）平成22年10月15日発行
第65号（2011春）平成23年1月31日発行
配布先…都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員 その他関係者
- ＊文化財保存修復（文化財赤字）カレンダー基金の募金活動
募集期間…平成22年11月～平成23年1月
制作題材…徳川美術館所蔵「源氏物語絵巻」現状模写本
募金応募件数…2、866件
（募金額9、696、825円）
- ＊日中韓文化交流フォーラムの開催
会期…平成22年11月15日～18日
会場…奈良・薬師寺及び読売新聞東京本社
- ＊「妙高夏の芸術学校」の共催
主催…妙高市、新潟県
共催…公財 文化財保護・芸術研究助成財団、新潟日報社
期間…平成22年7月29日～8月1日
- ＊第5回「文化財保存・修復―読売あおによし賞」を後援
主催…読売新聞社
- ＊「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を後援

- 主催…NPO法人 文化財保存支援機構
- ＊「森に守られた都市アンコール」―世界文化遺産アンコール遺跡群写真展―を後援
主催…財団法人静岡県文化財団
- ＊「文化遺産国際協力コンソーシアム国際シンポジウム」―文化遺産保護は平和の礎をつくる―を後援
主催…文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁、外務省
- ＊「第5回 美の継承展」を後援
主催…ライザークーポレーション
- ＊「文化人・芸能人の多才な美術展」を後援
主催…文化人・芸能人の多才な美術展実行委員会
- ＊「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護展」への協力
主催…東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

